

協力

66



伝道団体連絡協議会

〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台2-1 OCC 614号室
Tel. 03-3291-5035
www.dendankyo.com

FRONT ESSAY

「宣教150年、これから」

金俊坤博士が召天され、去る10月2日(金)韓国ソウル永樂教会において各派合同葬として盛大に営まれました。故人は韓国キャンパス・クルセード・フォー・クライスト総裁として、韓国国内はもとよりわが国においても最も尊敬され、多くの人々に大きな感化を与えた器でした。この場をお借りして謹んで哀悼の意を表させていただきます。

去る7月に行われた日本プロテスタント宣教150年記念大会の際には、伝道団体連絡協議会(以下(伝団協))など50団体から展示ブースにご協力頂くことができました。また第5回日本伝道会議(以下「JCE5」)においては57団体が出展して下さい、大会そのものに大きな活気を与えて下さったことに対して心から感謝を申し上げます。

ご承知のように、わが国における宣教活動は90年代以降停滞している、という認識が大方の見方であります。宣教150年を経ても尚、総人口比1%の壁を破ることができない要因はどこにあるのか、いや、開国した当時はキリスト教禁教の高札が未だ撤去されなかった時代であった。あの零(0)からの出発から1%とはいえ、今日に至るまで宣教の働きが実ってきた。これは大いに感謝すべき事ではないかなど、様々な見方があり、考えがあります。それぞれがもっともなご意見であり、大いに傾聴に値するものであると共に、「宣教150年、これから」のことを思うとき、お互い真剣に考えて行かなければならない責任の重大性を今更の如く強く感じています。

JCE5は、150年を迎える新しい日本と教会を拓くために、「危機の時代における宣教協力—もっと広く、もっと深く—」をテーマに選択しました。企画推進プログラム局長の竿代照夫師は主題講演において、公同教会観に立って、三つの側面でのパラダイムシフトを提案されました。第一は、エゴイズム(自分中心主義)からイーチャザーネス(お互い主義)へ。第二は、マイチャーチイズム(自分の教会中心主義)からインターチャーチイズム(協・教会主義)へ。第三は、デノミネーションナリズム(自分の教派が中心・教派エゴ)からインターデノミネーションナリズム(協・教派主義)へ。私はこのような重大な発言や提案を、その場限り(言い放し、聞き放し)で終わらせることなく、お互いの立場において、身近なところにおいて、さらに大きな場において、真剣に討議され、できるところから実行に移されて行く必要性を強く感じています。

先述しましたように、わが国における伝団協の働きは、教会の働きに比べて大いに活力があるように私は思えました。150年記念大会の際にもJCE5においても、展示ブースの賑わいは相当なものでした。「宣教150年、これから」のことを考える時に、「教会と伝道団体の協力の絆」を強くしていく必要があると思います。正直申し上げて、教会側からは伝道団体の顔が余り鮮明に見えにくいのです。ぜひ伝道団体の性格(活動内容)別にまとめて全体を提示していただくことをお願いします。そうすることによって具体的に教会と伝道団体の距離が縮まり、協力的体制がより具体的になるのではないのでしょうか。

去る2日(金)首都圏キリスト教大会(10月24日～25日・青山学院)のキックオフ・フェスティバル(決起祈禱会)が淀橋教会で行われました。その際、村上宣道師から、黙示録3章8節を通して「わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた」、それは「救いの門、宣教の門だ」と励まして頂きました。「宣教150年、これから」、個人と個人、教会と教会、教派と教派、そして教会と伝道団体が、共にそれぞれの壁を破って協力し合い、福音宣教のために邁進して行くではありませんか。



荻窪栄光教会主管牧師

中島 秀一



ヘボン夫妻 (明治学院所蔵)

プロテスタント宣教150周年を 記念して

～伝道団体の使命とこれから～

伝道団体連絡協議会 会長 姫井 雅夫

今から150年前(1859年)、長い鎖国のため固く閉じられていた門戸が海外に向けて開かれた。早速、日本人の救いのために宣教師たちが福音を携えて来日した。キリシタン禁教の高札が掲げられていた時代である。

150周年を記念して、総動員伝道では「東海道53次 歩いて伝道 Walk with Jesus」を企画した。延べ120人以上の方々、代わる代わる参加して歩いてくださった。道中には、昔の宿場に本陣があり、そこには決まって高札の掲げられた場があった。今ではレプリカであるが、キリシタン禁教の高札もあった。一緒に歩いてくださった牧師が、「主 30、バテレン 300 銀の数」と詠われた。主イエスは銀貨30枚で売られた。高札によるとバテレンに関する情報を持ってきた者には銀300枚を施すと書かれていた。

そのような危険な時代に殉教をも覚悟して来日してくださった宣教師たちに敬意を払う。現代のクリスチャンでこのような殉教スピリットをもっている者がどのくらいいるだろうかと思う。

宣教師が来日した当時、幕府はキリスト教に関しては高札のように排除しようとした。彼らからもらいたかったものは、教育、医学、兵学だっただろう。さっそく宣教師たちは学校や病院を建て、活動を始めた。英語による語学、病院による医学、学校による経済学など。

アメリカ長老教会から派遣された宣教医J. C. ヘボン (James Curtis Hepburn) が日本にキリスト教を伝道する志を持って夫人とともに来日したのは、1859年(安政6年)10月のことだった。やがてヘボン塾で勉強していた青年たちを中心にして、教会設立の気運が起こり、1874年(明治7年)9月13日、アメリカ長老教会の宣教師ヘンリー・ルーミスを初代牧師として設立されたのが横浜にある指路教会である。これが日本での最初の教会であると言われている。

学校はいつ頃からだろうか。1874年、築地に立教学校を始めた。1883年にカレッジとなり、1907年にユニバーシティ(大学)となった。最初の教会も学校も同じ1874年だったことが分かる。つまり伝道団体のひとつであるキリ



ウィリアムズ主教(立教学校創立者)

スト教系学校の設立である。

現在、伝道団体連絡協議会に属している団体の歴史をひもといてみると、ケネス・マクビティ師によって始められたいのちのこば社が1950年、ついで太平洋放送協会が1951年、ふたりの宣教師によって始められた。クリスチャン文書伝道団も同じ1951年。新生宣教師団は1954年、日本ミッションは1957年、いずれも宣教師たちによって始められた。

150年たった今、文書伝道、電波伝道、中学生や高校生、大学生を対象として学生伝道、医学生と医者を対象とした団体、ビジネスマンを対象とした団体、いわゆるターゲット伝道団体。社会福祉に貢献している団体、音楽伝道団体、伝道方策をかぎとする団体など、多くの各種伝道団体が活動している。

宣教師たちや海外の援助をいただいて始められた伝道団体が多い中で、これからの伝道団体のあり方を主に導かれたい。「教会と伝道団体とは車の両輪のように支え合い、協力し合って進んでいかねばならない」とよく言われる。しかし現実はいさぐ違ふ。「伝道団体は教会に仕えるものである。主体は教会であって、団体は補助的なものである」という表現も多く耳にする。実際、教会の会議などでは表決の際、団体は教会の何分の1の価値でしかない。団体の経済を支えているのも大半は信徒個人の献金であって、教会からの献金は比較すると少ない。これらのことからみて、伝道団体の位置づけが課題となってくるのではないだろうか。海外からの支援がなくてもやっつけていける財力的実力をつけなければならない。一般の企業で雇ってもらえなかったので、伝道団体で働かせてくださいというケースもある。働いている者たちのモチベーション、使命感が問われる。一般企業ではとても通用しないことが、伝道団体では許されているという現実も問題である。各種伝道のプロ集団にはなかなかきいていない。深く反省する。教会の中にも甘えの構造はあるが、伝道団体の中にもある。「霊に燃え、主に仕える」のは牧師や宣教師だけに求められていることではない。私たち、クリスチャン全員に求められていることである。

150年たって、これからの日本を思うと、一般大衆は何を求めているのか、彼らのニーズはどこにあるのか。「救い」に変化があってはならないが、そこへの道筋はいろいろあるだろう。だから各種伝道団体があるのだ。もう一度、使命を確認し、新しいビジョンをもって前進していきたい。



いのちのこば社（設立当初）



太平洋放送協会（設立当初）





NEWS FLASH

伝団協 加盟団体の 近況・祈りの課題

No. 66
2009年
10月

●いのちのこぼ社

旧新約聖書(新改訳)パイブルmini(定価2,940円)、巨匠が描いた聖書(年内特価3,780円)、月刊ディボーションガイド「manna マナ」(定価500円)がこのクリスマス期に豊かに用いられますように。11月26日(木)～12月23日(水)千葉県流山で開催される「星野富弘花の詩画展」に多くの方が来られるようにお祈りください。

●教会インフォメーションサービス

1. 今準備をしている11月上旬実行の年次集計の為。順調に進めることができるように。
2. 働き人を求めています。よい人が与えられるように。
3. 経済的な土台の確立の為。

●国際ナビゲーター

11月、聖書的な献金の募り方をテーマに「フル・ファンディング・スクール」を開催します。スタッフが献金について正しく理解を深め、実践していく事ができますように。

●「こころの友伝道」全国連合会

第57回「こころの友伝道」全国大会のため
◇日時：2010年8月17日(火)～19日(木) ◇参加目標：120名◇
場所：「シーパル須磨」(神戸市須磨区須磨浦通)
「こころの友伝道」全国連合会主催

●新生宣教団

いつも皆様のお祈りをありがとうございます。新生宣教団ではウガンダの子供たちに64ページの福音冊子「ザ・メサイア」を送るプロジェクトを展開しています。第1弾20万冊の製作が年内に進行します。このためのお祈りを引き続きよろしくお願ひいたします。

●J.T.J 宣教神学校

全国で学んでいる通信制・教室生の学生達の学びが守られ、教会での奉仕、働きが用いられるように。卒業生の働きが主によってこれからも祝福されるように。

●総動員伝道

- ・全国各地、各教会でもたれるクリスマスの催物が主に用いられるように。
- ・年末の収支が黒字でしめくられるように。
- ・来年1月の断食祈禱聖会が祝されるように。

●PBA・太平洋放送協会

11月23日(祝日)に市ヶ谷ルーテルセンターにて、「インターネット活用セミナー」を開催いたします。多くの方が集い、伝道に対して、良き学びと交わりの時となりますように。

●小さいのちを守る会

- ・若い人々が性を大切にすることを願って、トラクト『愛しあっていたらアタリマエ……』とされているあなたに」を発行しました。教会や学校などで用いられるように。
- ・小さいのちを守る会が教会と共に、いのちと性の大切さを発信し、日本社会に実現していくことができるように。

●日本国際飢餓対策機構

今年も26都市で教会協力を柱とする「世界食料デー」が開催されました。病む社会をいやすために日本国際飢餓対策機構が日本の教会の「公器」としてより良く仕えることができるようにお祈りください。

●日本聖書協会

ひとりでも、多くの人々に新共同訳聖書が届きますように。

●日本ミッション

1. 高齢者、老人施設への伝道が進みますように。
2. 来日宣教師による英会話伝道「JOYクラブ」が教会で用いられるように。
3. 視聴覚伝道部のDVD化作業が進みますように。

●アジアアクセス

- ・JCGI牧師研修の、研修生・修了生の諸教会が力強く成長するよう。
- ・各地で開催されている教会ネットワークが更に充実し、多くの教会が生み出され、日本を満たすように。

●近畿福音放送伝道協力会

- *メディアを通して一人でも多く救われる人々が起こされるように。
- *500余りの協力教会が与えられていますが、近放伝と教会が更に身近な関係となることができるように教会訪問や主日礼拝訪問が祝されますように。
- *財政面で毎月30万ほどが足りない状況が続いています。必要が満たされ放送伝道の働きが継続できますようお祈りください。

●パラビジョン

1. 地域メディア(ケーブルテレビ)を地域伝道に利活用する研究の進展のために。
2. クリスマン事業所として健全経営を以て世に証しできるように。

Sharing Vision

(伝団協 新年情報交換会)のお知らせ

日時：2010年1月15日(金)
会場：OCCビル901号室
時間：15:00～17:00

※団体同志、近況や情報を交換し、互いに祈り合う時を持ちます。奮ってご参加ください。出欠を事前に伝団協事務局までご連絡ください。

『協力』66号

発行日：2009年10月30日
発行所：伝道団体連絡協議会 郵便番号101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル 614号室
TEL.03-3291-5035 FAX.03-3291-5266 www.dendankyo.com info@dendankyo.com
発行者：姫井雅夫
印刷：新生宣教団(1,000部)